

言論報國

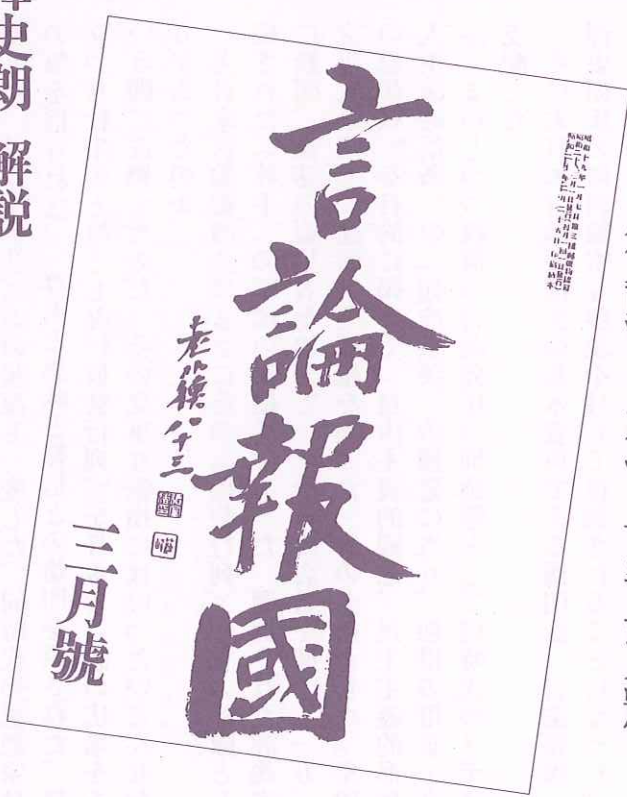
復刻版

げんろんほうこく

大日本言論報国会機関誌。

戦時下の言論人たちの思想と

行動を示す貴重資料！



赤澤史朗 解説

全二巻・別冊一（一九四三年一〇月～四五年五月）

A5判・上製・一、〇七六ページ（全一〇号を二巻に合本）

別冊II解説・総目次・索引（別冊のみ分売可II一、〇〇〇円十税）

揃定価（本体 四〇、〇〇〇円十税）

ISBN4-8350-0997-5

大日本言論報國會

不二出版

ナシヨナリズム再検討の時代に 中山和子 (元・明治大学教授)

戦後半世紀を経たいま、歴史の再審が問題化している。「自由主義史観」などナシヨナリズム擁護にたった歴史見直しの動きに對抗し、歴史学だけではなく、社会学その他分野横断的に、多様な方法によるナシヨナリズム再検討がいま問題の焦点である。

「戦後五〇年」は国民という怪物を再生させた。戦争を知らない私より若い優秀な世代が、誠実さゆえにこうして国家に回収されてゆく情景は悲しい(西川長夫)と評されるような、文壇批評家の現状とも、当然つながりをもつ事態である。

こうしたとき「大日本言論報国会」機関誌『言論報国』が復刻されるという。文学者の全国組織であった「日本文学報国会」と姉妹団体でありながら、かなり様相を異にしていたこの超国家主義的団体のイデオロギーが、いかに編成され作動したのか、それを知る手がかりを得ることになるのは有難いことである。

尖鋭な近代批判者、フアナティックな「大東亜戦争」讃美者であった高群逸枝の読み直しも、近年になってさかんである。彼女の戦時期の執筆活動を援助した一人市川房枝は、大日本言論報国会の唯一の女性理事として活躍した。婦人参政権運動の担い手が、容易に「国家」に回収されなければならない問題、「女性の国民化」の課題を考えるうえでも、今回の復刻の意味は大きいはずである。

言論弾圧の別動隊の実像を あきらかにする資料

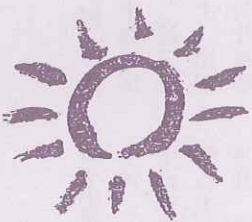
山領健二 (神戸外語大学教授)

一九四一(昭和一六)年一二月、戦争が中国大陸からアジア・太平洋全域に一気に拡大されたのを機に、日本社会の空気は急速に暗転した。ジャーナリズムの状況も一変した。同時代の思想家林達夫の筆を借りれば、「尊大と愚昧と軽信との烙印を捺された、気負い立った牡牛のとめどもない仮装行列」が日本の言論の広場をあっという間に占拠したのだ。その見事な転換にはいったいどんなからくりがあったのか。

大日本言論報国会はまさにその《仮装行列》の主力部隊として組織された《牡牛》の軍団の根拠地であった。選別された評論家の外に新聞、雑誌の編集者を加えて一千余名の会員を擁する一方、既成文筆人を排して運営の主導権を握った一群の会員たちは「皇国内外の思想戦」を目的に掲げて「自由主義的観念、民主主義的形体、個人主義的信条」の「残滓余殃」の摘発に当り、独得の用語・文体をふりまわしつつ政府の言論弾圧の別動隊として同時代のメディアを支配した。

その大日本言論報国会の基本資料である機関誌『言論報国』が赤澤史朗氏の周到綿密な解説を付して復刻されることになったのは、この団体についてもっと確かに知りたいと願う者にとって思いがけない吉報である。同時代人の回想だけに依存せず一次資料の発掘に努めてきた同氏の研究成果と併せて今日の読者に手渡される復刻版が、戦時期日本の外からは見えにくい細部を照らし出す光となることが期待される。

内容見本



精神的食糧の根源

蘇峰 徳富猪一郎

本日は、近頃痛快なる新聞に接し、御同様誠に大慶の至りに堪へませぬ。それは申す迄もなく、敵米英が所謂第二

(主張) 勝利は待たず……………(二)

世界維新論……………井澤 弘……………(三)

科學維新の道……………杉 靖三郎……………(三)

内 観 典論の効果…加田 哲二(三)
内 観 ……松永 材(三)
改暦こそ民信を立つる所以 忠亮(元)
神意隨順承諾必謹…三井 甲之(四)

文化維新

座談會

野村重臣
田中忠雄
房内幸成

★言論報國……………(五)
いくさうた……………(五)
齋藤 响……………(五)

豫てドイツが待ち設けてありまして、今や其を逸せず、直ちにヒツ此の敵を撃滅する決心を一應申上げて置きます。併不勉強であります。併味する譯でありますと思ふて居る次第であります。ないけれども、會員上げますれば自畫自讃を擧げて見ますれば、も、我が言論報國會は

復刻にあたって

雑誌『言論報国』は、十五年戦争の末期、昭和一八年（一九四三年）一〇月、大日本言論報国会の機関誌として創刊、同二〇年（一九四五年）五月まで全二〇号刊行された。

創刊号の「巻頭言」（徳富猪一郎）において、「米英の反攻は今後恐らく熾烈激甚を極めるであらう、……恐るべきは一億国民の思想の不統一にあり、各人各個の心中の狐疑にある、……」と現状を分析し、思想家・言論人の結束をより一層はかるため、大日本言論報国会が結成され、当時の著名な文化人が動員されていく姿が本誌において画かれる。

弊社では、すでに『文学報国』の復刻版を刊行し、戦争末期の文学者・作家のあり様を示す資料を提供したが、『言論報国』は、さらに広く、自然科学者も含む文化人・マスメディアに携わる言論人・社会活動家などが登場する。

大戦末期の資料の乏しい時期の資料として本誌が活用されることを望む。

不二出版

1998年10月 一括刊行

主要執筆者一覧

梶鳥 敏	井上哲次郎	木村 毅	時子山常三郎	御手洗辰雄
浅野 晃	江部 鴨村	下中弥三郎	中河 与一	三井 甲之
阿部 静枝	太田黒伴雄	杉 靖三郎	中山伊知郎	保田与重郎
生田 花世	尾佐竹 猛	井上 司朗	野口米次郎	山崎 謙
井沢 弘	加藤 一夫	津久井竜雄	平井 恒子	山高しげり
市川 房枝	鹿子木員信	徳富猪一郎	穂積 七郎	湯川 秀樹



関連図書のご案内

日本文学報国会刊（昭和一八年～二〇年刊）

文学報国

解題（山内祥史）・解説（高橋新太郎）・総目次・索引付き

A3判・上製・函入・総一六〇頁

定価（本体一八、〇〇〇円＋税）

太平洋戦争下の昭和一七年五月に、国策の周知徹底と宣伝普及のため情報局の指導により発足した日本文学報国会の機関紙。言論の自由を完全に奪い去った後の文化統制下の知識人・文化人の状況を明らかにする重要資料。

●推薦Ⅱ尾崎秀樹・小田切進・久保田正文

文芸懇話会刊（昭和一一年～二二年刊）

文芸懇話会

全二巻・別冊一

別冊Ⅱ解説（高橋新太郎）・総目次・索引

A5判・上製・総一、五一六頁

揃定価（本体五三、〇〇〇円＋税）

文壇・文学者のファシズム統合への道を拓いた官民合同の文学団体Ⅱ文芸懇話会の機関誌。同会は一九三四年三月、内務省警保局長松本学が文化統制を目的に創立、大衆文学・自由主義までの多くの作家を取り込むことに成功した。国家の文化政策とそれに対峙する文学者とのせめぎ合いを明らかにする。

●推薦Ⅱ海野福寿・榎本隆司

不二出版 様

〒113-0023

東京都文京区向丘1-2-12

電話03-3812-4433

ファクシミリ03-3812-4464

振替00160294084

1998.10

●表示価格は、全て税別。